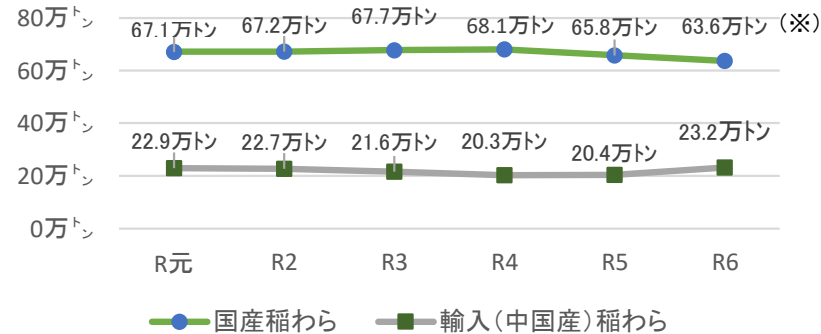
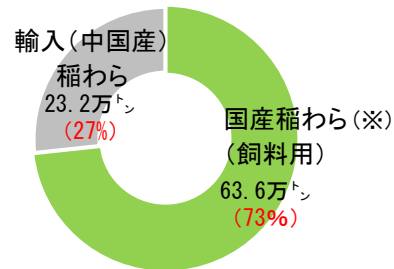


国産稲わらをめぐる状況

- 稲わらは、国内発生量の1割弱に相当する約60万トンが飼料利用されているものの、約20万トンを中国から輸入。
- 稲わらの収集に必要な機械の導入や調製・保管施設の整備に対する支援等やマッチングの取組等により国産稲わらの利用の拡大を推進。

- 稲わらの自給率(R6年産)
- 稲わらの利用状況の推移



資料: 飼料用国産稲わらは飼料課調べ、
輸入量は財務省「貿易統計」
(10月～翌年9月までの合計)

(※) 国内の稲わら発生量(R6)は推計771.8万トン
飼料用途の他は、主に敷料、堆肥、すき込み等として利用

- 国産稲わらのマッチングの取組

ウェブサイトのアドレス
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/inawara.html

- 中国からの稲わらの輸入量と通関価格

	輸入量(千トン)	通関価格(円/kg)
R4年度	203	63.6
5年度	197	49.3
6年度 (確々報値)	211	48.1
7年度 (確報値)	238	42.8
8年度 (4月) (速報値)	22	42.4

資料: 財務省「貿易統計」

- 稲わらの乾燥利用以外の活用
(生稲わらサイレージの例)

< 特徴 >

- ・天候の影響を受けずに調製が可能
- ・β-カロテン(ビタミンA前駆体)、ビタミンEの含有量が乾燥稲わらよりも多い
- ・乾燥稲わらに比べ嗜好性も良い

< 留意点 >

- ・ロール成形時に乳酸菌を添加し、ラッピングすること
- ・開封後は、2日以内で使い切ること
- ・ビタミンAコントロール時は、特に肥育中期の給与に注意すること

(主な事業)

【R7年度補正】 国産飼料生産・利用拡大緊急対策事業

(飼料生産組織の運営強化支援)

飼料生産組織の運営強化のため、①稲わらの収集の規模拡大・省力化に必要な機械の導入や簡易倉庫の設置、②畜産農家等と長期契約し規模拡大する取組(拡大分面積払い)を支援。(補助率: ①1/2以内、②定額)

(国産粗飼料流通体制構築対策)

国産粗飼料取扱業者が畜産農家と複数年の販売契約を締結して、国産粗飼料の広域流通を拡大する取組を輸送距離に応じて支援(拡大分数量払い)。(補助率: 定額)

(国産粗飼料利用拡大実証・調査)

利便性等に優れる国産稲わら等の梱包・運搬に必要な実証等を支援。(補助率: 1/2以内、定額)

(国産飼料流通拠点整備対策)

国産飼料の広域流通に必要な保管施設等の整備を支援。(補助率: 1/2以内)

【R7年度補正】 畜産クラスター事業

畜産クラスター計画に基づき、国産稲わらの収集に取り組むために必要な機械の導入等を支援。(補助率: 1/2以内)